

会報

福 寿

第 81 号

発行者 四絡連合福寿会

発 行 令 和 8 年 1 月



こちらから

四絡コミュニケーションセンター長 安達清志

会員の皆さんが、仲間と楽しそう

に過ごしておられる姿は、微笑ましく、明るい気持ちになります。自分もこんなふうになりたいな、と思うからです。家族を守り、地域社会を支えてこられた皆さんが、大きな仕事を成し遂げられ、現在も元気に研修や地域活動に取り組まれ、談笑されている姿は、周囲から見ると憧れであり、尊敬すべき対象なのです。ですから福寿会是我々にとってありがたく大切な存在なのです。

会員の皆さんが、地域の活動に対し様々な助言をくださること、このことについても感謝しています。皆さんの経験は、我々にとって暮らしの教科書です。AI流行の時代ですが、体験や地域に伝わる知恵に学ぶことはたくさんあります。福寿会は、地域の羅針盤です。進むべき道を論じてくださる大切な存在なのです。私たちコミュニケーション職員は、福寿会の皆さんから様々なご助

言をいただきながら地域づくりを進めています。また自治協会や社会福祉協議会をはじめ多くの団体に支えられ活動しています。すべては皆さまの「おかげ」なのです。

この「おかげ」に報いるために、私たちは「こちらから」の気持ちを大切にしています。坂村真民さんの詩に「こちらから」という作品があります。一節に「こちらからあいさつをする」「こちらから声をかける」「こちらからあたまをさげる」とあります。職員も「こちらから」の心で地域の皆さんへ感謝の気持ちを伝えていきたいと思っています。

第三中学校の生活目標のひとつに「先手あいさつ」があります。これも謙虚な心で相手を思いやる「おかげさま」を実践する教育です。「おかげさま」そして「こちらから」を大切に、これからも職員一同心を一つにして地域づくりに取り組んでいきます。

令和七年度 四絡連合福寿会

役員研修旅行

会長 小畑 実

「敬老の日」週間の九月二十日浜田市の「アクアス」へ連合福寿会視察研修で出掛けました。しかし雲空を心配しながらの出発でした。出雲からの高速道でバスからの景色も以前とは違う風景を楽しむことができました。また顔見知り同士でもありバス内も和やかな雰囲気の中、予定通りアクアスへ到着、私は二十二年ぶりのアクアスなのでどんなに変わっているのか楽しみでした。まず魚介類が多数の「岩見万葉の磯」の水槽。奥へ進むと島根の魚の水槽。幻想的な「クラゲ」の水槽、千tのパノラマ大水槽ではサメなど、日本の魚類多数、この中を通る海底トンネルは悠々と泳ぐエイやサメの迫力ある姿を

